

SJEC2021

報告書・日記（オンライン）



Stanford
University

①プログラムの評価できる点

- ・米側参加者の知的教養レベルが極めて高い
あの世界トップの外交国家安全シンクタンク CSIS（戦略国際問題研究所）でインターンをしている人も..
- ・アメリカ人と仲良くなる機会と Academic な議論を深める機会の双方が与えられているため、交友関係を広げ、たくさん遊び、しっかり学ぶことができる
- ・まさに理想的な国際交流の場！

②プログラムの問題点

ただ、だからこそ、それゆえに、実際に現地に渡航してみんなに逢いたかったなあという想いが日増しに強くなった

③主催者について

- ・ 団体名：
- ・ 参加人数

日本人	人
	人
	人
	人
	人
その他	人

- ・ 通信状況 (返信は早いか、情報は十分だったか)

十分であった

- ・ 主催者側の問題点

特になし

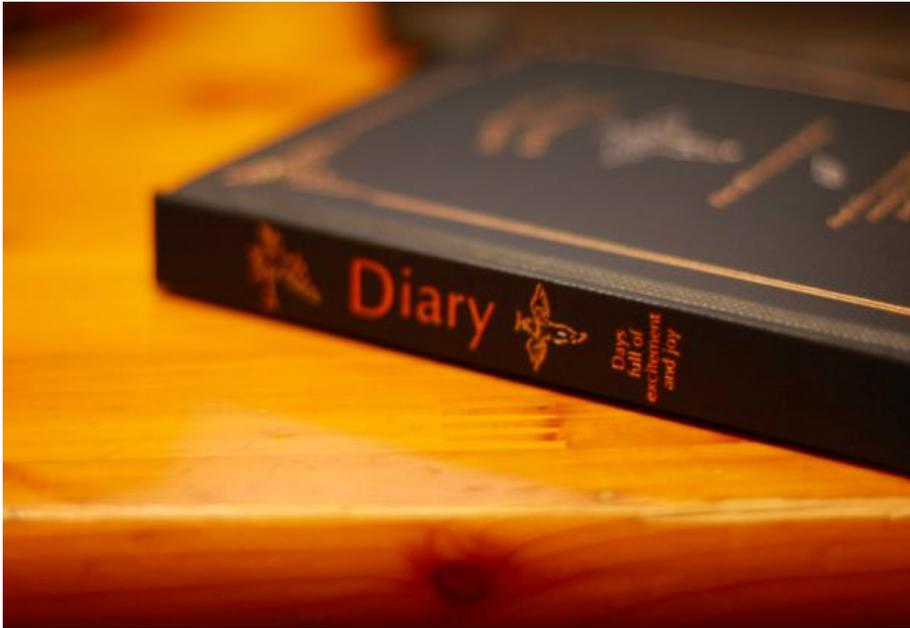
④派遣体制について

・コミュニケーションが十分に取れていたか、説明会等の情報は明確であったか、感想問題点等

- ・迅速円滑かつ十分なコミュニケーションが取れていた
- ・説明会も必要な情報を収集するのに十分であった
- ・ただ、応募の提出フォームを探すのに少し手こずった記憶あり

派遣日記

~Diary~



20 年 2 月 16 日 ~ 5 日

2 月 1 日 木 曜 日
8

*タイムテーブル

10.00-12.00: Social event

14.00-15.00: Academic Team meeting



*感想

(具体的なプログラム内容や印象深かったエピソード等)

16日に初めて顔合わせをした後、本格的に活動開始した第1日目である。

Social event では BOR に分かれてチーム毎に自宅で Scavenger Hunt 。2時間がつつり使えたので、他の participants との仲を深める良い機会となった。Lunch time にも Zoom に残って積極的に交流して、交友を広げた。

Academic Team meeting では、Covid-19 について共同研究や discussion を開始。

2 月 2 日 水 曜日
4

*タイムテーブル

10.00-11.00 : Interview
with Prof Gentzkow



*感想

(具体的なプログラム内容や印象深かったエピソード等)

この日は、Covid-19 の Research Team で Stanford の 経済学教授である Prof Gentzkow をお呼びし、事前に用意していた質問にご回答いただいた。質問の内容は、アメリカ国内の顕著な partisanship(政治的党派性)とコロナの関係が主であった。

教授もアメリカと大きく異なる日本の実情に関心を持っておられたようで、1時間という限られた時間ではあったが、非常に活発で有意義な議論・意見交換が行われた。

3 月 5 日 金 曜 日

*タイムテーブル

10.00-12.00 : Farewell
Gala



*感想

(具体的なプログラム内容や印象深かったエピソード等)

プログラム最終日である。各Academic group が研究結果をプレゼンした。私は「なぜ日本では polarisation(政治的二極化)が起こらないのか」というテーマで、戦後日本の国内政治について説明させて頂いた。

公式プログラムが終了した後も名残惜しく、何時間もZoomに残って他愛もない雑談をし続けた。

今後の宣伝に向けて

(アピールポイント・その他感想等、次年度以降応募を迷っている人たちの背中を押す宣伝文をお願いします！)

本プログラムいちばんの魅力は、米側参加者の知的教養レベルが極めて高いため、単にアメリカの学生と仲良くなる機会というだけでなく、どんなテーマでもAcademicに活発な議論を交わしあい、深い交流を果たせる点にあると感じる。気さくで向上心に満ちた彼らとたくさん遊び、しっかり議論し、結果多くを学べることは本当に楽しく、得がたい経験であった。

そもそも私は「コロナという未曾有の危機にあっても、日米間には揺らぐことのない信頼と友情がある」ということを自ら体感したいと思い、志願させていただいた。渡米しての対面交流は叶わなかったが、人間的魅力あふれる様々な人に出会い、夫々の学びや背景、抱いているvisionを共有することができ、今も折々やり取りが続いている。海外交流の意味とは、そこからお互い何を得て何を考え、結果その後の人生で何を成すかにこそあるだろう。日米関係を通して、日本や世界に対するより広い視野・知見を得たいと願う人にとって、SJECはひとつの最良な窓口になると私は信じる。

ご協力ありがとうございました！
またお会いできるのを楽しみにしております。

慶應義塾大学 福利厚生機関
国際関係会 海外派遣局一同

SJEC2021

報告書・日記（オンライン）



Stanford
University

2

①プログラムの評価できる点

SJECは体制がとてもしっかりしている印象を受けた。学術的なトピックを扱うのは難しさも伴うが、各グループにアカデミックアドバイザーがいたおかげで3週間という長い期間を中だるみせずにご過ごすことが出来たと思う。スタンフォード大学の教授に取材をする機会も2度設けてくれて、当初プログラムに期待していたものを上回るコンテンツが提供されていたと思う。また、志高い参加者から多くの刺激を受けながら多種多様な企画に参加できたためモチベーションを維持して参加することが出来た。

3週間SJEC漬けだったといえるような濃密で有意義な時間をオンラインで提供してくれた企画サイドには感謝しかない。

②プログラムの問題点

初めに予定されていたよりも拘束時間が長く、元々決まっていた火曜日と木曜日以外に多く予定を入れていた参加者は両立が難しかっただろうと予想できる。たとえばプログラム時間外にトピックに関連する動画をみたり教授へ取材を行っていたので、満足度がコミット出来た度合いに左右されそうだと感じた。

また、アカデミックチームのメンバー以外との交流が少なかった。週に2回、合計6回social interactionの時間を設けてくれていたため助かったが、参加できるメンバーに偏りがあったのが勿体なく感じられた。

③主催者について

- ・ 団体名：SJEC
- ・ 参加人数

日本人	19	人
スタンフォード生	28	人
		人
		人
		人
その他		人

- ・ 通信状況 (返信は早いか、情報は十分だったか)

通信状況は申し分なかった。
必要事項は連絡があったし、アカデミックアドバイザーはうまくチームをサポートしてくれた。情報が不十分だと感じたことはなかった。

- ・ 主催者側の問題点

問題は特になかったと感じた。
強いて言うならば固定の曜日以外にも企画が行われることを事前に告知していた方が親切だったとは感じるが、それ以外は非常に優秀な運営陣だと思った。

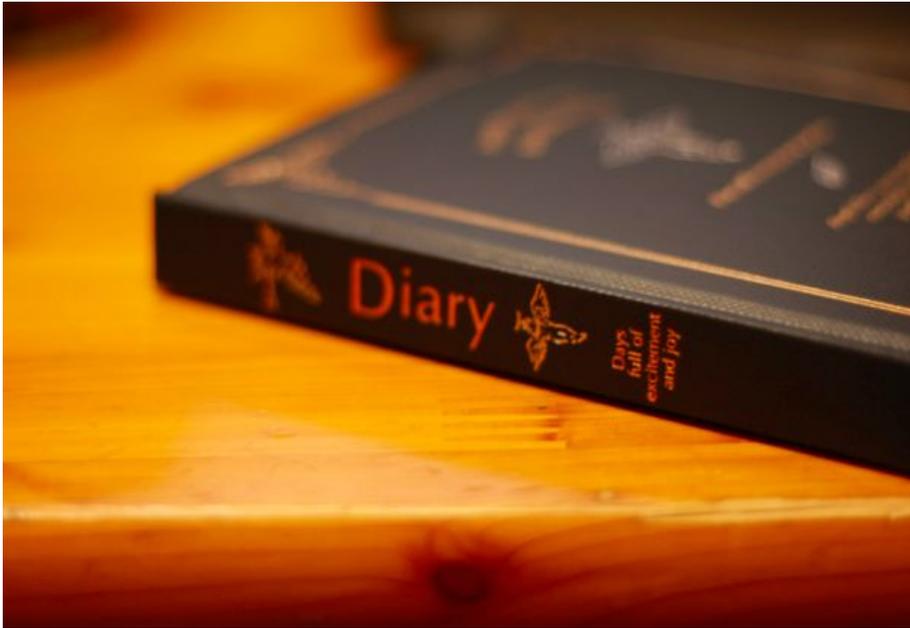
④派遣体制について

- ・コミュニケーションが十分に取れていたか、説明会等の情報は明確であったか、感想問題点等

参加までの流れはとてもスムーズだったと思う。宣伝のポスターがSKIPグループに貼られ、そこから簡単にフォームにアクセスできたため不便は感じなかった。説明会には参加できなかったが、自身の思い描いていたプログラム像とかけ離れていた部分はなかった。ただ、日本からの参加者は本学からのみだと思っていたため他の大学から参加者がいたのは嬉しいサプライズだった。

派遣日記

~Diary~



2021 年 2 月 18 日 ~ 3 月 5 日

2 月 16 日 火 曜 日

*タイムテーブル

9:00~ Welcome
orientation

10:00~12:00 Social
Event

14:00~15:00 Academic
team meeting



*感想

Welcome orientationではこれから先の予定を分かりやすく説明してくれて、不明点がなくなりワクワクがとても高まった。

それに続いた初めてのSocial Eventでは、自己紹介を兼ねたゲームをした。短時間で多くの参加者と話すことが出来てとても楽しい時間になった。

火曜日と木曜日のこの時間帯は毎回ちがうゲームでのsocial eventが開催されたため、多くの参加者と仲良くなることが出来た。

(次ページでつづく)

2 月 16 日 火 曜日

*タイムテーブル

9:00~ Welcome

orientation

10:00~12:00 Social

Event

14:00~15:00 Academic
team meeting

PHOTO

*感想

プログラムの間はアカデミックなトピックについてチームとして学んだ。これは単に知識を得るだけでなく、日米の比較を通して行うことに主眼が置かれていた。

各チームについてくれるアカデミックアドバイザーがいてpre-readingを2つ出してくれていたのので、それについての理解や認識を共有した。そして互いの意見を交換することで日米での価値観のちがいをより肌で感じられた。

私たちの班では臓器移植がテーマだった。

火曜日と木曜日のこの時間帯は毎回アカデミックチームでのMTGがあったため、知識だけでなく親交を深めることが出来た。

2 月 17 日 水 曜日

*タイムテーブル
13:00~14:00 watch party
& roundtable discussion

PHOTO

*感想
スタンフォードで過去に行われた臓器移植に関するディベートをチームメンバーと見た。
そして挙げた点を整理し、それらに関して自分たちがどう思うかについて共有した。
内容は難しい点もあったが、pre-readingに出た話題があったり、視聴しながらチームメイトがメモをとってくれていたのも参照しながら理解をすることが出来た。

2 月 18 日 木 曜日

*タイムテーブル

10:00~12:00 Social
event

14:00~15:00 academic
team meeting

PHOTO

*感想

Social eventはアカデミックチーム以外の参加者と話して仲良くなれる機会なので、毎週2回設けてくれて嬉しかった。毎回ちがうゲームをするので飽きずに参加できた。

Academic team meetingでは、次の日に控えていたMolly Tabor教授への質問内容をチームでまとめた。事前に考えてきたものを共有し、優先順位を考えたり話の流れを考慮して順番を並べ替えたりした。

2 月 19 日 金 曜日

*タイムテーブル
09:00~10:00 Meeting
with Professor Holly
Tabor

PHOTO

*感想

スタンフォード大学の教授と話すことができる機会はそうないため緊張しながらZOOMリンクを踏んだ。しかし教授は非常に優しい方で、質問をしたこと以上の答えを返してくださいました。彼女のお人柄のおかげでリラックスすることが出来たし、予定にはなかった追加の質問にまで挑戦することが出来た。学術的な知見を用いて多角的に答えてくださり、専門的な用語も噛み砕いて説明して下さったためとても刺激的な体験だった。

教授へ質問をぶつけた後、チームメンバーで答えをまとめたものを見返したりそれらについての意見交換をした。

2 月 23 日 火 曜日

*タイムテーブル

10:00~12:00 Social
event

14:00~15:00 academic
team meeting

PHOT
O

*感想

この日のMTGでも質問づくりに勤しんだ。ただ、Dr. Ikenoに聞く質問と、スタンフォード生に聞く質問（2月25日分を参照）を考える必要があったため大変だった。

*タイムテーブル

08:00~09:00 Meeting
with Dr. Fumiaki Ikeno
11:00~12:00 “Exploring
Rural America: A
Discussion on
Health” Live Lecture,
Dr. John Cullen

PHOTO

*感想

朝はDr. Ikenoに質問させていただく時間だった。Dr. Ikenoはプレゼンテーションを用意してくださり、データなどを最初に共有してくださった。質問をする際にもプレゼンテーションのスライドを見せながら答えてくれたため分かりやすかった。また、医療現場の内側からの視点だったため、自分たちだけでは分からない貴重なことを聞くことが出来た。

この2時間後に任意参加のライブレクチャーがあった。一般のスタンフォード生に交じって参加させていただき、違った切り口からの知見を得ることが出来た。

2 月 25 日 木 曜日

*タイムテーブル

10:00~12:00 Social
event

14:00~15:00 Interview
night with Stanford
students

PHOT
O

*感想

この日はアカデミックMTGではなく、有志で集まってくれたスタンフォード生に質問をする機会があった。ここまではそれぞれのテーマについて教授やドクターといった専門分野の方々に伺ってきたが、より一般的な視点を取り入れることが出来た。一口にスタンフォード生と言っても様々なバックグラウンドを持つ学生が在籍しているため、アメリカにおいて共有されている価値観とそうでない価値観の違いなども知ることが出来て興味深かった。

3 月 1 日 火 曜日

*タイムテーブル

10:00~12:00 Social
event

14:00~15:00 academic
team meeting

PHOT
O

*感想

ここからのMTGではFarewell Gala に向けてプレゼンテーションの用意を進めた。

最終日は今までに得た知見などを元に日米を比較するような形で自分たちが扱うトピックについて発表する機会が設けられていたため、そのための構成や分担を話し合った。

3 月 3 日 木 曜日

*タイムテーブル
10:00~12:00 Social
event
14:00~15:00 academic
team meeting

PHOTO

*感想

最後のSocial eventも楽しく過ごすことができた。終わりが近づいていて寂しい気持ちもあったが、多くの人とたくさん話すことができて充実した時間だったと感じることができた。

MTGでは前回と同様に最終プレゼンに向けての準備を行った。

*タイムテーブル
10:00~12:00 Farewell
Gala

PHOTO

*感想

この日は朝早くに集まってプレゼンテーションを数回練習してからFarewell Galaに臨んだ。

各班の発表は非常に興味深く、アメリカについてもさることながら日本についても新たに知ることがあって有意義な時間だった。スタンフォード生たちが積極的に質問している姿勢を見て刺激を受け、一つ質問をすることができて嬉しかった。

最後にはアカデミックチームでもう一度話して、対面でも会おうと約束をしてプログラムを終えた。

全体として、とても濃く充実した時間を過ごすことが出来て、達成感に包まれながら最終日を過ごすことが出来た。

今後の宣伝に向けて

(アピールポイント・その他感想等、次年度以降応募を迷っている人たちの背中を押す宣伝文をお願いします！)

同年代の海外大生と議論がしたい人、
英語の力試しがしたい人、
議論も英語も自信はないけど成長を実感したい人、
SJECに参加しましょう！

SJECはスタンフォード大と慶大、京大、同志社大から集まった学生たちがアカデミックなトピックに関して議論をし知識を深めるプログラムです。志の高い学生たちと興味分野を英語で学ぶチャレンジな体験が出来ます。スタンフォード大教授への取材や過去講義の視聴など、SJECにしか提供できないコンテンツが盛りだくさん！

もちろんゲームやおしゃべりを通して新たな友達に出会うこともでき、ここだけの刺激的な経験ができること間違いなし！

**いつもの異文化交流よりワンランク上の体験を
SJECでしませんか？**

ご協力ありがとうございました！
またお会いできるのを楽しみにしております。

慶應義塾大学 福利厚生機関
国際関係会 海外派遣局一同

SJEC2021

報告書・日記（オンライン）



Stanford
University

3

①プログラムの評価できる点

企画者の準備がしっかりとされていたため、毎回は充実していた。全体でアイスブレイクのゲームだけをする日やアカデミック班だけでミーティングをして作業をする日もあったため、色々な人と楽しく交流することができた。

②プログラムの問題点

アカデミック的な内容をアカデミック班内でしか話さなかったため、班の間での交流がもう少しあっても良かった。

③主催者について

- ・ 団体名：SJEC
- ・ 参加人数

日本人	19	人
スタンフォード生	28	人
		人
		人
		人
その他		人

- ・ 通信状況 (返信は早いか、情報は十分だったか)

返信などの対応も素早く、情報伝達も分かりやすかった。

- ・ 主催者側の問題点

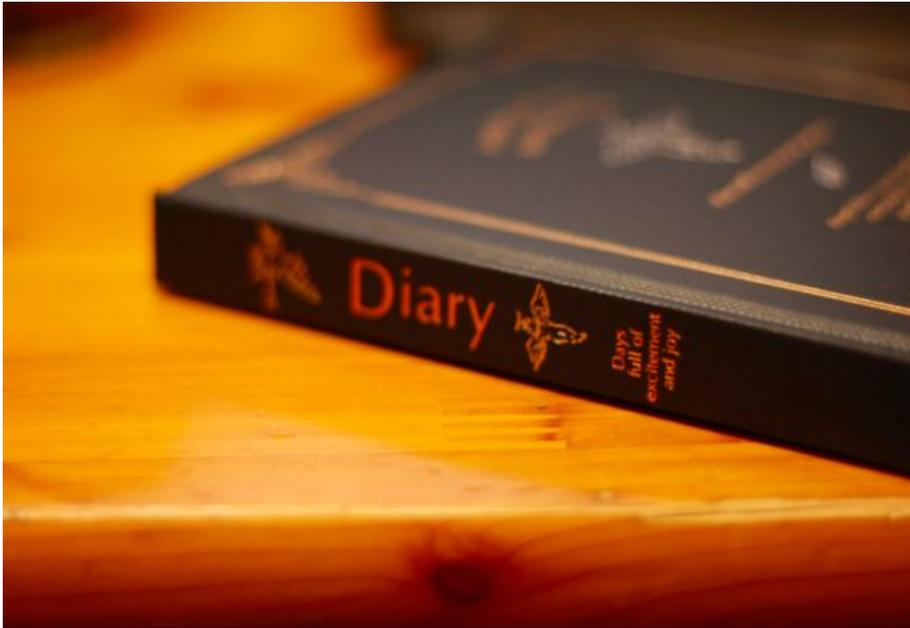
④派遣体制について

・コミュニケーションが十分に取れていたか、説明会等の情報は明確であったか、感想問題点等

説明会などはなかったが、十分なコミュニケーションがあったため、情報は明確だった。

派遣日記

~Diary~



20	年	2	月	16	日	~	3/	日
21							5	

2 月 1 日 木 曜 日
8

*タイムテーブル
10:00~ Social Event



*感想

プログラムが始まって初めてのSocial Eventは、ブレイクアウトに分かれて、自己紹介を兼ねたゲームをした。welcomeオリエンテーションやプログラムが開始する前に少人数グループで既に話したことがある人もたくさんいたため、緊張することなく楽しめた。

2 月 2 日 火 曜日
3

*タイムテーブル
10:00~ Social Event



*感想

Social Eventの日だったため、仲を深めることを目的にアイスブレイクゲームが用意されていた。この日のゲームはビンゴゲームだったため、グループに分かれて、渡されたリストの中からどれだけ多くのことをグループメンバーで協力して達成できるかをポイントで競った。有名な絵画の真似をして写真撮ることがリストに乗っていたため、写真ではグループで「ムンクの叫び」を表現している。

3 月 5 日 金 曜 日

*タイムテーブル
10:00~ Farewell Gala



*感想

参加者と企画者についてのクイズ大会をやった後、思い出を振り返り、雑談を通してより一層仲を深めた。最終日だったので、みんなでSJECCのtシャツを着て写真を撮った。最後に残れる人だけでzoomに残り雑談をし、深い話をみんなでしたのが印象深い。

今後の宣伝に向けて

(アピールポイント・その他感想等、次年度以降応募を迷っている人たちの背中を押す宣伝文をお願いします！)

スタンフォード生と仲良くなれるだけでなく、様々なテーマについて意見交換をしたり、アカデミック面でもとても充実していたプログラムです！世界のトップレベルの大学生と英語で交流し、プログラムが終わっても続くような友情を作りたい人には是非おすすめです！

ご協力ありがとうございました！
またお会いできるのを楽しみにしております。

慶應義塾大学 福利厚生機関
国際関係会 海外派遣局一同